

A 氏邸訪問記(2023.3.22)

1. はじめに

今回の訪問は、[前回の A 氏邸訪問](#)以来、1 年と 3 ヶ月になります。今回の訪問の主な目的は、その後の経過の確認とスピーカーアキュライザーSPA-7 の試聴です。メインの試聴対象は SPA-7 ですが、タイミングよく入手した Crystal E Jtune と当方で不要になったムジカライザーML-6 も対象に加えました。A 氏の他にオーディオ仲間 3 氏も参加されました。

2. A 氏邸のシステムの概要と試聴条件

A 氏邸のシステムは、前回の訪問記以降ほとんど変わっていません。試聴システムは、300B 真空管アンプ SV-300 で駆動するヤマハのスーパーツイーターJA0506 付加の JBL4410 と KEE LS3a/5 に低域を TANNOY Arden に受け持たせた変則的マルチアンプ駆動システムです。

試聴対象は次のとおりです。

Crystal E Jtune

Clone2R(RCA 端子接続用ケーブル)

Clone2UA(USB 端子接続用ケーブル)

スピーカーアキュライザーSPA-7 1 ペア (バナナプラグ付きケーブル準備)

ムジカライザーML-6 1 ペア

試聴する対象とその条件は下記のとおりです。

SWD-DA20 Crystal E Jtune 接続効果

PC Crystal E Jtune 接続効果

アンプ/スピーカー間 SPA-7 接続効果

音源は、当方が提供した CD も含め、持ち寄った CD やファイル音源や DVD などから A 氏とオーディオ仲間のご希望で選択されました。

順序としては効果の小さい方から大きい方へと変わるように下記を想定しました。

PC による再生で SWD-DA20 の RCA 入力端子への Crystal E Jtune 接続

PC の USB ポートへの Crystal E Jtune 接続

PC と DENON CDP による再生で JBL4410 に SPA-7 接続

PC による再生で KEF LS3a/5 と TANNOY Arden のマルチアンプシステムの
前者に SPA-7 接続

時間があれば、PC による再生で JBL4410 に ML-6 接続

3. A 氏邸のシステムの試聴経過

最初に前座として仮想アース Crystal E Jtune の SWD-DA20 と PC への接続効果をザビア・クガートのピーナッツベンダー、ボーカルもの、バッハのオルガン曲トッカータとフーガなど、CD 音源を絞って比較していきました。いずれも Crystal E Jtune なしに比べて、ラテン特有の騒がしさが後退しつつ切れ味が向上し、ボーカルのニュアンスが分かりやすくなり、オルガンの高域が澄んで低域の粗さも緩和されます。SWD-DA20 と PC のどちらの効果が大きいと言えば、後者ですが、前者はすでに自作の仮想アースを残していたためではないかということになりました。

そして本日のメインプログラムの SPA-7 を JBL のシステムに投入して、同じ音源を聴いていきましたが、すべてワンランク以上、音楽としての表現力が向上しました。ここで、入力系を DENON の CDP の DCD S-10III に替えて聴いていきましたが、ソフトな音になるものの、音の焦点は PC 再生よりぼやけ気味になりました。DAC の SWD-DA20 にはインフラノイズの GPS-777 からの高精度クロック入力があるためかもしれません。

ここで PC 再生系に戻し、小川理子の 78 回転アナログ盤からの DSD 録音音源や持ち寄った CD を順次聴いていきました。

ホリー・コールなど男女のジャズボーカルやシャンソンなどの微妙な表現ニュアンスの向上、フラメンコのギターやアルゼンチンタンゴのバンドネオンの音の立ち上がり、ポルトガルの民族音楽ファドの哀愁を帯びた音楽などなど、SPA-7 の効果に Crystal E Jtune も助勢して、当初の状態から様変わりしていることが分かりました。この効果をさらに追い込むためには、JBL のネットワークのレベル調整を見直すこともあるのではないかという声もありました。なお、SPA-7 と Crystal E Jtune を順次外していくと、ありふれた元の音に戻っていきました。

SPA-7 の代わりにムジカライザー ML-6 ではどうかという声もあり、繋ぎ替えをしたところ、ML-6 のマイナス端子に 10000F の電解コンデンサーを仮想アース的に接続すると、音源によっては良いところもあるという声もありました。

最後に、マルチアンプシステムの中高域を受けもつ KEF に SPA-7 を付与してみようということになり、以上の音源を聴き直しましたが、JBL より、こちらの方が効果が大きいのではないかという声もありました。メーカーでは、Rogers の LS3a/5 を開発時のモニターに使用しているようなので、この結果は首肯できます。このような変則的な使い方でも効果があったことから、もうワンペアーの SPA-7 を Arden に使用するか、あるいは ML-6 で代用するとかして、マルチアンプシステムのレベル調整を見直すと、空恐ろしい結果になるのではないかと推察されます。

A 氏の希望で、マーラーの 2 番の DVD を再生しましたが、オーボエやソプラノ、アルトの質感に加えて、手を加えていない Arden の受け持つコントラバスの合奏やテ

インパニまでだぶつくことなく明瞭に再生されたことは驚きでした。
ここでお開きとなりましたが、短時間に多くの知見が得られ、さらに SPA-7 のポテンシアルを活かす展望も見えてきました。



システム全景



駆動系・CDP



DAC に仮想アース接続



PC に仮想アース接続



JBL4410 と 300B アンプ間に SPA-7 接続

4. まとめ

A 氏邸の二つのシステムにおいてスピーカーアキュライザーSPA-7 の顕著な効果を

認めました。また、PCやDACに仮想アース Crystal E Jtuneをセットする効果もあり、SPA-7の効果と違和感なく調和していました。これらは、多様な音楽ジャンルの音源に対しても対応できており、SPA-7のハード、ソフト両面での汎用性が確認できました。なお、20年前の製品であるムジカライザーML-6は、現在でも使い方によっては存在感を失っていないことも分りました。

以上